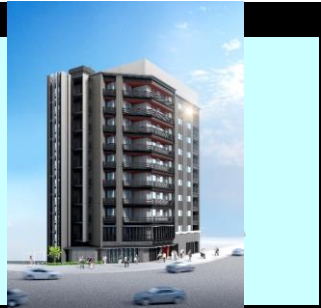


# CASBEE® 京都-新築

## 標準システム

■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)堀川五条PRJ	階数	地下1F、地上10F
建設地	京都市下京区五条通堀川西入柿本町575番地	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	217 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年10月 予定	評価の実施日	2018年8月23日
敷地面積	399.57 m <sup>2</sup>	作成者	篠原 宏治
建築面積	329.06 m <sup>2</sup>	確認日	2018年8月24日
延床面積	2,893.78 m <sup>2</sup>	確認者	小出 徳夫



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.9** ★★★★★

環境品質 G vs 環境負荷 L

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%  
②建築物の取組み 94%  
③上記+②以外の 93%  
④上記+ 93%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5  
Q1 室内環境: 3  
Q3 室外環境(敷地内): 3  
LR1 エネルギー: 3  
LR2 資源・マテリアル: 3  
LR3 敷地外環境: 3

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.8**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.2

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.6

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.6

### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 2.9**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 2.9

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.9

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 空調・給排水配管の更新必要間隔が長くなるように配慮した。 客室は高い昼光率を確保し、太陽光発電やエコジョーズ、LED照明を採用し、地域環境および周辺環境への配慮を行った。		その他
<b>Q1 室内環境</b> 全てのサッシにT2を採用し、遮音性能に配慮した 内装の仕上げにはF☆☆☆☆を採用し、居室の1/10以上の開放可能な窓を確保することにより、化学物質の発生に配慮した	<b>Q2 サービス性能</b> 各客室にはGbitクラスのブロードバンドが利用可能な環境を整備し、機能性に配慮した	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 景観地区の基準に沿った外観とし、まちなみ・景観への配慮を行った
<b>LR1 エネルギー</b> 太陽光発電やLED照明を採用し、設備システムの高効率化に努めた	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 各客室には節水器具(シャワー水栓)と節水型大便器を採用し、水資源保護に配慮した	<b>LR3 敷地外環境</b> 屋外広告物はなく、光害の抑制に努めた

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される